

公立大学法人金沢美術工芸大学  
平成24年度業務実績報告書

[論点整理表]

平成25年6月

公立大学法人金沢美術工芸大学

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学生が充実した学 生生活を送ることが できるようにするた め、生活面での支援 体制を充実する。	(I) 福利厚生面での充実を図 るため、学生の意見を広く聴 き、改善に努める。	(I) 学生自治会等との意見交換 等を実施し、学生の意見を聴 き、学内環境の改善に努め る。	○学生自治会執行部と年4回意見交換 を行ったほか、学内での喫煙及び飲 酒に関するルールについて自治会の 同意を得るための話し合いを行っ た。 ○画材や文具等を販売する売店の改善 を求める学生の要求に対して、プロ ポーザル方式による業者選定を実施 し、使い勝手の良い売店の実現を 図った。	IV		資料26

54

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>ア 芸術の分野において、世界に通じる研究拠点を形成するため、新たな芸術の創造に資する高度な調査研究や地域の特色ある課題に積極的に取り組む。</p>	<p>(イ) 世界に通じる研究拠点となるため、国際的な共同研究に取り組む。</p>	<p>(エ) 昨年度まで金沢市の委託事業として実施してきた「アジア工芸作家等研修支援業務」を本学の業務として継続して実施するとともに、アジア工芸教育交換プログラム（4年目）として、工芸教育者や専門家との相互交流を通じて、伝統的な技術等の共有と人的ネットワークの構築を目指す。</p>	<p>○「アジア工芸作家等研修支援業務」では、ミャンマーマンダレー管区の若手染織プランナーを昨年度からの継続で4カ月間、また新たに同国の国立漆芸技術大学及び国立サウンダー染織学校から各1名ずつの若手教員を3カ月間受け入れた。</p> <p>○上記若手教員2名は、本学での漆芸・染織の専門演習授業に参加させたほか、石川の工芸産地見学を行った。</p> <p>○ミャンマーの伝統技法を紹介するワークショップ及び講演会を開催し、本学学生や金沢及び石川県内の漆芸・染織関係者との技術交流を行った。</p> <p>○ミャンマーの若手染織プランナーは、1年間の研修を終え、急成長が見込まれる同国での新規事業に携わった。</p> <p>○「アジア工芸教育交換プログラム」では、一昨年度、昨年度に引き続き、ミャンマーマンダレー管区タンパワディーの鑄金、鍛金の現地調査に加えて、新たにアジアの伝統的ものづくりと先端的IT環境及びデザイン教育についてマレーシアで現地調査を行ったほか、石川県の社会福祉法人「佛子園」からの委託を受け、ブータンの工芸品を国際市場に参入させるためのプラン策定を行った。</p>	IV		資料31
<p><b>〔質問〕</b>                  ・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。</p>						62

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）  
 (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。</p>	<p>ウ 大学の知的資源の特性を生かし、他大学や各種研究機関との共同研究を実施する。</p>	<p>ウ 他大学や研究機関等との連携                      (7) 医療におけるアートの潜在的な可能性の調査研究を金沢市立病院と共同で行う。</p>	<p>○金沢市立病院を会場にして、「第1回ホスピタル・ギャラリー展」、「第12回光の回廊シリーズその4パレード」、「第13回待ち時間を豊かにする椅子展Ⅱ」、「第14回ランドスケープ・デザイン展示」を行い、医療におけるアートの潜在的な力の効果について、展示、アンケートを通して調査研究を行った。</p>	<p>IV</p>		<p>資料43</p>

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）  
 (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。</p>	<p>ウ 大学の知的資源の特性を生かし、他大学や各種研究機関との共同研究を実施する。</p>	<p>(カ) 被災地でケア活動を実施している宮城大学関係者を本学に招き、「東日本大震災復興における芸術の果たす役割」をテーマとしたシンポジウムを5芸大との共催で開催する。</p>	<p>○11月7日、金沢21世紀美術館において、「東日本大震災復興における芸術の果たす役割」をテーマにシンポジウムを開催した。                  被災地からゲストとして宮城大学学長をはじめ3名の芸術系教員を招き、基調講演、活動報告を行った後、五芸大の学長等によるパネルディスカッションを実施し、会場参加者からの質疑を交えて芸術による新たな活動や支援方法などについて活発な議論を行うことができた。                  最後に、五芸大連名による声明文を採択し、東日本大震災の記憶を風化させず、「文化芸術」の力を活かし、今後の活動を行っていくことを宣言した。                  シンポジウムの内容は報告書として取りまとめ学内外に配布するとともに、大学ホームページに掲載し、公表した。</p>	<p>IV</p>		<p>資料45</p>

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）  
 (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。</p>	<p>オ 学生とともに、市民に向けた多彩なアートイベントを開催する。</p>	<p>カ 23年度開設した「アートベース石引」を大学の情報発信拠点として、各種アートイベントを開催するほか、商店街を含めた地域活性化と産業との連携事業を実施する。</p>	<p>○開設2年目の「アートベース石引」はトイレの改修を行い、利便性を高めた。                  ○学生有志のグループ展のほか、研究室単位の成果報告会や制作のスペースとして、また産学連携の成果発表の会場として活用して石引商店街の賑わいづくりに貢献した。                  ○石川県インテリアデザイン協会主催の「能登で活動するデザイナーを招いてのミニフォーラム」や「金沢ADC第1回受賞作品展」、また卒業生のメンバーからの要望による展覧会（バレーボール部OB展「たま展／一球一芸」）等が開催された。                  ○本年度のイベント数は21を数え、開場日は延べ231日に達し、前年度以上の稼働率であった。</p>	<p>IV</p>		<p>資料16 資料47</p>

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）  
 (2) 国際化に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育研究活動を推進するため、学生や教員の国際交流の機会を拡大する。	ア 教育研究における国際交流を推進するため、学生や教員の海外交流の機会を拡大するとともに、交流内容の充実を図る。	(イ) ナンシー国立美術大学(フランス)との交流協定締結に向けて協議を開始するとともに、引き続き、学生を派遣する。	○ナンシー国立美術大学との間で、6月19日に、毎年1～3ヶ月の期間、学生1名を相互派遣・受入れすることを内容とする正式な交流協定を締結した。 ○本学から学部学生1名を派遣し、10月から2ヶ月間滞在した。滞在期間中に、聴講及び制作活動、学生との交流などを行い、帰国後に報告会を実施した。	IV		資料48 資料51

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）  
 (2) 国際化に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育研究活動を推進するため、学生や教員の国際交流の機会を拡大する。	ア 教育研究における国際交流を推進するため、学生や教員の海外交流の機会を拡大するとともに、交流内容の充実を図る。	(カ) 新たにナント美術学校（フランス）との交流協定締結に向けて協議を開始する。	○毎年1～2ヶ月の期間、学生1名を相互派遣受入れすることとする内容の、正式な交流協定を12月17日に締結した。これに基づき、25年度からの学生相互派遣・受入れ開始を確認した。	IV		資料52

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。



財務内容の改善に関する目標  
 2 経費の効率化に関する目標  
 (2) 人件費以外の経費の効率化に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
人件費以外の経費の効率化を図るため、弾力的かつ効果的な予算執行に努めるとともに、業務の簡素化及び効率化を進める。	イ 物品や備品の共同購入やインターネットの活用など、調達方法の改善を図り、効率的な予算執行を進める。 【22年度試行】	ウ 新たな調達業者を調査するとともに、工事の仕様書発注や物品調達における共同購入並びにインターネット活用など、効率的な予算執行を行う。	○地元業者では入手までに時間がかかる物品やより安価で効率的な物品納入を目指して、新たに法人クレジットカードを取得して、インターネットによる調達対象物品を拡大した。 ○施設改修設備工事では、設計から建設までを一括して発注する仕様書発注を試行し、設計管理費と現場管理費の節減に努めた。	IV		資料60 115

## 〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標  
2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>社会に対する説明責任を果たすため、学内情報の公開等に関する基本方針を定め、積極的な情報公開を図るとともに、大学の活動を広く社会に示すため、教育研究活動等について積極的な情報発信を図る。</p>	<p>(2) 大学の活動を広く市民に示すとともに、教育・研究・社会活動・国際交流に関する大学広報力を強化し、美大ブランドの確立を目指す。</p>	<p>(6) 被災地でケア活動を実施している宮城大学関係者を本学に招き、「東日本大震災復興における芸術の果たす役割」をテーマとしたシンポジウムを5芸大の共催で開催する。 【再掲 社会連携事業】</p>	<p>○11月7日に金沢21世紀美術館シアター21において、五芸大の共催で宮城大学学長 西垣 克氏、中田千彦准教授を招き、シンポジウム「東日本大震災復興における芸術の果たす役割」を開催し、声明文を採択したほか、シンポジウムの報告書を作成し学内外に配布するとともに、大学ホームページで公表した。</p>	<p>IV</p>		<p>資料45 128</p>

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

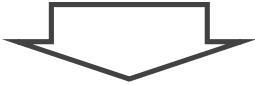
大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>ア 芸術に対する高い資質を持つ学生を募集し確保するため、各科、各専攻ごとに、それぞれが求める学生像や能力、適性等について入学者受入方針を定め、これに基づいた学生の選抜を行う。</p>	<p>(イ) 入学者受入方針に応じた学生の受入れを行うため、現行の入学者選抜方法について再検討し、その結果を実践する。</p>	<p>(ア) 22年度に策定した入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき実施した24年度一般選抜試験が、その受入方針の実現にふさわしい選抜方法であったか検証を行い、その結果を入学試験に活かす。</p>	<p>○入試委員会において、24年度入学試験を検証した結果、一般選抜試験及び特別選抜試験ともに、アドミッションポリシーに基づいた選抜内容・方法であることを確認した。なお、確認に当たっては、専攻別の入学試験実績状況に関する記録を利用し、選抜試験がアドミッションポリシーの求める学生を見極めるためのものとして適切であったか、また今後の選抜試験において改善の必要性があるか、出題について工夫の余地はないのか、という点について作業を行い、次年度以降の入学試験に活かすこととした。</p>	<p>Ⅲ</p>		<p>1</p>

〔質問(実績文言修正)〕

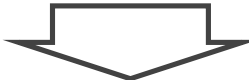
・検証作業を行った結果、入学試験に活かされたか、という点について記述を欠いている。

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>ア 芸術に対する高い資質を持つ学生を募集し確保するため、各専攻ごとに、それぞれが求める学生像や能力、適性等について入学受入方針を定め、これに基づいた学生の選抜を行う。</p>	<p>(イ) 入学受入方針に応じた学生の受入れを行うため、現行の入学選抜方法について再検討し、その結果を実践する。</p>	<p>(カ) 各地域で開催される進学相談会に引き続き積極的に参加するほか、新たに県外からの修学旅行生を対象にした体験教室等を開催する。</p>	<p>○大阪、愛知、京都、富山、神奈川、新潟、兵庫に加え、広島での芸術系相談会に各専攻の教職員29名が参加し、242名の相談を受けた。</p>  <p>○これまでの実施地域（大阪、愛知、京都、富山、神奈川、新潟、兵庫）に加え、新たに広島における芸術系進学相談会にも参加し、各専攻の教職員29名が各地域で計242名の相談を受けた。</p> <p>○大学や専攻を紹介するDVDやバナー（布製説明用パネル）、パンフレットを有効活用した。</p> <p>○予備校や画塾とも連携し、ワークショップや保護者向けガイダンス、本学学生の公開作品展示を実施した。</p> <p>○新たに関東圏や関西圏の予備校で受験生や保護者向け説明会を開催した。</p> <p>○大阪からの高校の修学旅行を受け入れ、体験授業を実施した。</p>	<p>IV</p>		<p>資料3 資料3-1</p>

〔意見(実績文言修正)〕

- ・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。
- ・事業実績において、進学相談会の開催地域の拡大を強調して記述すべきではないか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。	(イ) 人間形成のための教養教育を確保し、体系的な理論基礎教育を実践するため、一般教育科目と専門基礎科目の在り方を見直し、カリキュラムを充実する。【24年度改編】	(ア) 教育の実質化を図るため、成績評価基準を明確にしてシラバスの充実を図る。	○昨年度に作成したシラバスを、24年度の教務委員会で精査し、成績評価の基準について、客観化して具体的な目標を定め、学生にとって伝わりやすい表現に改め25年度のシラバスに反映できるように科目担当者に指示し、教務委員会で総括を行った。    ○教務委員会でシラバスを精査し、成績評価の基準について、客観化して具体的な目標を定め、学生にとって伝わりやすい表現に改めるよう各科目担当者に指示し、改善の結果を24年度末に作成する25年度のシラバスに反映させた。	III		資料3-3

[意見(実績文言修正、資料追加)]

・平成25年度段階では、シラバスを通じて成績評価基準の明確化が果たされず、年度計画は達成できなかったというように読み取れる。

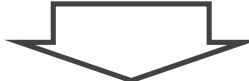
大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。	(オ) 専攻にとらわれず、多様な芸術分野を学ぶことができるようにするため、学生が主体的に選択できる基礎的な共通科目を充実するほか、他大学等との単位互換の活用方法を検討し、有効かつ実現可能と認められるものについて、導入を進める。【24年度改編など】	(ク) 金沢大学との連携協定を活用し、共同研究や連携事業に学生の参加を促す。また、金沢大学等の学生の受け入れについて検討する。	○金沢大学医薬保健学域医学類の「基礎配属」を受講する学生を4名受け入れて、2月に美術、デザイン、工芸の講義及びデッサンの実技を行った。 ○金沢大学との連携協定に基づいて、金沢大学理工研究域と、本学のデザイン科等の研究発表会に学生の参加を促した。 ○工芸科と金沢大学研究室のラボツアーを行い、学生も参加した。	Ⅲ		資料7 資料8

〔意見〕

・年度計画には「検討する」とあるが、実績は検討段階から先に進み「実施」しているため「Ⅳ」評価が妥当ではないか。敢えて「Ⅲ」評価とした理由は何か。

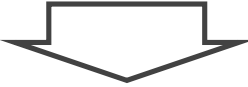
大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。	(カ) 美術系教員や学芸員などの専門家養成課程を堅持するため、制度改正に伴う教職関係科目、学芸員養成科目の適切な対応を実施する。【24年度改編】	(コ) 23年度までの見直しに基づいた教職関係科目を開講する。	○24年度からの新カリキュラムを施行し、教職関係科目を開講した。    ○24年度からの教職関係科目の新カリキュラム開講の計画を遅滞なく実施することができた。さらに、この新カリキュラム改編は、専門科目全般の見直しを含んだものであり、総合的な改善となった。	III		資料9-1

[意見(実績文言修正、資料追加)]

・「年度計画」がどのように達成されたかについて具体的な記述に欠ける。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。	(カ) 美術系教員や学芸員などの専門家養成課程を堅持するため、制度改正に伴う教職関係科目、学芸員養成科目の適切な対応を実施する。【24年度改編】	(ヤ) 制度改正に対応した学芸員養成科目を開講する。	○24年度からの新カリキュラムを施行し、学芸員養成科目を開講した。    ○24年度からの学芸員養成科目の新カリキュラム開講の計画を遅滞なく実施することができた。さらに、この新カリキュラム改編は、 <u>専門科目全般の見直しを含んだものであり、総合的な改善となった。</u>	III		資料9-2

[意見(実績文言修正、資料追加)]

・「年度計画」がどのように達成されたかについて具体的な記述に欠ける。



中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>ウ 大学院教育にあつては、芸術の多様な領域で活躍できる高度専門職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、自由で多様な表現を認め育てる高度な教育を効果的に実施する。</p>	<p>(イ) 産学連携研究や地域課題を研究テーマに活用し、社会と接点を持つ教育プログラムを検討し、大学院生自らがマネジメントを行う実践的で高度な教育を推進する。</p>	<p>(イ) 社会の第一線で活躍する独立系デザイナー等を招聘し、ディレクター養成教育を進める。</p>	<p>○デザイン科については卒業生や就職先からの大学に対する意見を、直接非常勤講師として採用するなどの方法で教育に反映して成果を挙げている。</p> <p>○美術科・工芸科に関しては、卒業生や就職先からの大学に対する意見は主として就職担当教員の企業訪問の機会を活用して収集している。</p> <p>○全学的に卒業生の意見を取り入れる仕組みを構築するため、卒業、修子の確定した全学生に対して、2月に大学教育全般についてのアンケートを実施した。</p> <p>○自己点検・評価実施運営会議及び各科・専攻でそのアンケート結果の集計・分析を行い、今後も継続して情報を蓄積し、教育効果の検証を行うこととした。</p> <p>○独立系デザイナー（映像系：早川和良、製品デザイン関連：高尾茂行、塚本カナエ、環境デザイン関連：吉村寿博）や企業デザイナー（電通、博報堂、sony、パナソニック、乃村工芸社など）を招聘し、現場でのデザインワークの実際やマネジメント等の実践的な経験を踏まえた活動を学習した。さらに、広告代理店海外担当ディレクターを招聘し、自分の制作コンセプトを英語でまとめ、プレゼンテーションを行うなど、国際的な視点でのディレクション教育を行った。</p>	<p>III</p>		

〔意見(実績説明文訂正)〕  
 ・「企業ディレクター」、「独立系デザイナー」、「企業デザイナー」の意義とその関係性が不明確であり、「年度計画」がどのように実現されているのか分かりにくい記述となっている。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ウ 大学院教育にあつては、芸術の多様な領域で活躍できる高度専門職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、自由で多様な表現を認め育てる高度な教育を効果的に実施する。	(ウ) 表現の多様化、自由化や高度化など、学生の多様な学習需要に対応するため、学生が主体的に選択できる共通科目を充実する。【24年度改編など】	(カ) 大学院生の要望に応じた外部講師を招聘する。	○24年度は大学院特別講師として以下の講師を招聘した。  服飾ブランド matohu/まとふ 堀畑裕之氏、関口真希子氏 現代美術家      名和晃平氏 森美術館館長   南條史生氏 ギャラリスト    小山登美夫氏	Ⅲ		資料11 資料12

〔質問〕

・講師陣は、年度計画にある「大学院生の要望に応じた」講師選定の結果として招聘された者か。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
エ 教育の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を定め、これを厳正に適用することにあわせ、その検証に取り組むことにより、成績評価の透明性、客観性及び信頼性の向上を図る。	(7) 卒業生、修了生の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を策定し、これらを公表するとともに、成績評価基準については、学生の学修目標設定などに資するため、シラバスへ記載し、学生に明示する。【22年度】	(7) 引き続き、シラバスの成績評価欄について基準を明確にするため記載を改善する。	○成績評価欄について基準を明確にするため、教務委員会や大学院運営委員会等で検討し、その改善について各専攻等で確認を行い、改善の結果を24年度末に作成する25年度のシラバスに反映させた。	Ⅲ		資料3-3

25

[意見(実績文言修正、資料追加)]

・平成25年度段階では、シラバスを通じて成績評価基準の明確化が果たされず、年度計画は達成できなかったというように読み取れる。

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>エ 教育の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を定め、これを厳正に適用することにあわせ、その検証に取り組むことにより、成績評価の透明性、客観性及び信頼性の向上を図る。</p>	<p>(7) 卒業生、修了生の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を策定し、これらを公表するとともに、成績評価基準については、学生の学修目標設定などに資するため、シラバスへ記載し、学生に明示する。【22年度】</p>	<p>(イ) 成績評価の客観性を高めるため、ピアレビューを実施して、その効果を検証する。</p>	<p>○実技の成績評価の客観性を高めるため、他専攻教員を含めた複数教員による合評会を実施し、それを全学統一のフォーマットで記録する方法でピアレビューを実施した。その効果については、教育研究センター及び各専攻・科で検証した。</p>	<p>Ⅲ</p>		<p>資料13</p>

〔意見〕

・年度計画の「効果を検証する」に対して、業務実績ではピアレビューを行った結果、客観性を高める効果があったかどうかを記載すべきではないか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学生が充実した学生生活を送ることができるようにするため、生活面での支援体制を充実する。	(ウ) 学生生活の経済的な支援を充実する方策を検討し、有効かつ実現可能と認められるものについて、財源の確保に取り組む、効果的な支援制度の構築を目指す。	(ウ) 卒業生や民間企業等の協力を得て、学生生活の支援が出来ないか検討する。	○昨年度活用を決定した「社会福祉法人金沢市社会福祉協議会」の奨学金制度については、実績として学生の利用はなかったが、同窓会からの寄付金による「けやき賞」については、ほぼ全専攻から学生の推薦があり、7件の顕彰を行い、奨学金を授与した。	Ⅲ		資料25

〔意見〕

・年度計画には「検討する」とあるが、実績は検討段階から先に進み「実施」しているため「Ⅳ」評価が妥当ではないか。敢えて「Ⅲ」評価とした理由は何か。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。	イ 企業等からの受託研究や共同研究などにおいて、教育と研究の観点から大学が取り組む意義のある研究を積極的に実施する。	イ 企業等からの受託研究や共同研究などにおいて、教育と研究の観点から大学が取り組む意義のある研究を積極的に実施し、学生のスキルアップに活用する。	○企業や自治体等との間で、商品化や事業化を前提とした32件の連携事業を行った。生活用品、自動車の内装提案など、商品化を前提とした企業等からの厳しい要求に応えることで学生のスキルアップにつながっており、最終プレゼンテーションも高く評価された。	IV		資料5
参考 No.10(資料番号1 P10) イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。	(I) 産学・地域連携研究を授業課題に活用するなど、社会と接点を持つ教育プログラムを検討し、実践的な教育を推進する。	(ウ) 産学連携研究や地域での芸術活動の依頼のうち、教育的効果が期待できる事業を積極的に受託・参画し、実社会の課題を通じて経験を重ねる教育を実施する。	○東京六本木AXIS内JIDAギャラリーにおいて、産学連携・地域連携業務において商品化されたアイテムや学生が企画した美大アイテムを展示公開し、これまでの実績と今後の産学連携業務のアピールを行った。 ○企業、公共団体等からの依頼により連携した事業は産学連携事業として14件、地域連携事業として18件を行ったが、これらの中には、教育プログラムとして有効なものが多数あり、実社会の課題を通して効果的な授業を行うことができた。特にスマートデバイスの新しいインターフェイス開発、金沢の水パッケージデザイン、メガネフレームデザイン等は実際に商品化されており、今後も具体化を視野に取り組んでいくことを確認した。	III		資料4 資料5

78

〔質問〕

- ・この項目とNo.10は各々連動していないと見てよいか。なお、No.10は「Ⅲ」評価である。
- ・「Ⅳ」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。	ウ 大学の知的資源の特性を生かし、他大学や各種研究機関との共同研究を実施する。	(イ) 卯辰山工芸工房、クラフトビジネス創造機構や職人大学校等との協働を検討する。	○本年度においても、卯辰山工芸工房や職人大学校との間で相互講師派遣を行った。本学工芸科教員は卯辰山工芸工房の研究会や講評会に参加し、また職人大学校からは木工の実技指導の講師として工芸科の授業を受け持った。さらに授業や学外活動においても教員を通じて、工房の相互使用や制作・技術支援を学生間で行った。 ○金沢クラフト創造機構と協働で、「おしゃれメッセ2012」のメインポスターデザインを、学生8名によるコンペを行って選抜・作成した。	Ⅲ		

〔意見〕

・年度計画には「検討する」とあるが、実績は検討段階から先に進み「実施」しているため「Ⅳ」評価が妥当ではないか。敢えて「Ⅲ」評価とした理由は何か。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育研究活動を推進するため、学生や教員の国際交流の機会を拡大する。	ア 教育研究における国際交流を推進するため、学生や教員の海外交流の機会を拡大するとともに、交流内容の充実を図る。	(ア) バッファロー美術大学(アメリカ)との交流協定締結に向けて協議を開始する。	○20年度より始まった交流実績に基づき、両校との間で主に教員同士の交流を目的とした正式な交流協定を締結した。 ○これを受けて、交流協定締結後最初の交流事業として、10月14日から20日にかけて、本学から教員2名を派遣し、講演会及びワークショップを開催するとともに、将来の学生の相互交流開始に向けた協議を行った。	Ⅲ		資料48 資料49

〔意見〕

・年度計画には「交流協定締結に向けて協議を開始する」とあるが、実績は協議段階から先に進み「交流協定を締結」し、交流事業を実施しているため「Ⅳ」評価が妥当ではないか。



中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育研究活動を推進するため、学生や教員の国際交流の機会を拡大する。	ア 教育研究における国際交流を推進するため、学生や教員の海外交流の機会を拡大するとともに、交流内容の充実を図る。	(オ) ヴァランド芸術学院（スウェーデン）から学生を受け入れる。	○ヴァランド芸術学院が当初派遣することを予定していた学生が本人の都合により来日できなくなったため、急遽、ヴァランド芸術学院の教員1名が、本学の状況と今後の交流について協議するため、2月25日から3月1日まで来学した。	Ⅲ		93

〔質問〕

・「Ⅲ」評価について、どのような基準で自己評価したのか。不測の事態の原因が先方にあることから、実質的に判断したということか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育 研究活動を推進するた め、学生や教員の国際 交流の機会を拡大す る。	イ 外国人留学生の受入れの拡 大を目指し、受入制度を検討 し、有効かつ実現可能と認め られるものについて、制度化 を図る。	イ 外国人留学生の受入れの拡 大を目指し、受入制度の検討 に着手する。	○大学院における外国人の受入れに 関する「特別科目等履修生受入れ 要項」から、日本語能力試験2級証 明書、及び外国人登録証明書（留 学の在留資格）の提出を削除し、 実質的に優秀で指導可能な外国人 留学生受入れの拡大を図った。	IV		資料54

97

〔質問〕

- ・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。
- ・「業務実績」の記述の印象として、留学生の質の担保やコンプライアンスの観点からやや不安を覚えるが、それらの点については特段の問題はないと見て差支えないか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学生が充実した学生生活を送ることができるようにするため、生活面での支援体制を充実する。	(イ) 福利厚生面での充実を図るため、学生の意見を広く聴き、改善に努める。	(イ) 学生自治会等との意見交換等を実施し、学生の意見を聴き、学内環境の改善に努める。	○学生自治会執行部と年4回意見交換を行ったほか、学内での喫煙及び飲酒に関するルールについて自治会の同意を得るための話し合いを行った。 ○画材や文具等を販売する売店の改善を求める学生の要求に対して、プロポーザル方式による業者選定を実施し、使い勝手の良い売店の実現を図った。	IV		資料26

54

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>ア 芸術の分野において、世界に通じる研究拠点を形成するため、新たな芸術の創造に資する高度な調査研究や地域の特色ある課題に積極的に取り組む。</p>	<p>(イ) 世界に通じる研究拠点となるため、国際的な共同研究に取り組む。</p>	<p>(エ) 昨年度まで金沢市の委託事業として実施してきた「アジア工芸作家等研修支援業務」を本学の業務として継続して実施するとともに、アジア工芸教育交換プログラム（4年目）として、工芸教育者や専門家との相互交流を通じて、伝統的な技術等の共有と人的ネットワークの構築を目指す。</p>	<p>○「アジア工芸作家等研修支援業務」では、ミャンマーマンダレー管区の若手染織プランナーを昨年度からの継続で4カ月間、また新たに同国の国立漆芸技術大学及び国立サウンダー染織学校から各1名ずつの若手教員を3カ月間受け入れた。</p> <p>○上記若手教員2名は、本学での漆芸・染織の専門演習授業に参加させたほか、石川の工芸産地見学を行った。</p> <p>○ミャンマーの伝統技法を紹介するワークショップ及び講演会を開催し、本学学生や金沢及び石川県内の漆芸・染織関係者との技術交流を行った。</p> <p>○ミャンマーの若手染織プランナーは、1年間の研修を終え、急成長が見込まれる同国での新規事業に携わった。</p> <p>○「アジア工芸教育交換プログラム」では、一昨年度、昨年度に引き続き、ミャンマーマンダレー管区タンパワディーの鑄金、鍛金の現地調査に加えて、新たにアジアの伝統的ものづくりと先端的IT環境及びデザイン教育についてマレーシアで現地調査を行ったほか、石川県の社会福祉法人「佛子園」からの委託を受け、ブータンの工芸品を国際市場に参入させるためのプラン策定を行った。</p>	IV		資料31
<p><b>〔質問〕</b>                  ・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。</p>						62

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）  
 (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。</p>	<p>ウ 大学の知的資源の特性を生かし、他大学や各種研究機関との共同研究を実施する。</p>	<p>ウ 他大学や研究機関等との連携                      (7) 医療におけるアートの潜在的な可能性の調査研究を金沢市立病院と共同で行う。</p>	<p>○金沢市立病院を会場にして、「第1回ホスピタル・ギャラリー展」、「第12回光の回廊シリーズその4パレード」、「第13回待ち時間を豊かにする椅子展Ⅱ」、「第14回ランドスケープ・デザイン展示」を行い、医療におけるアートの潜在的な力の効果について、展示、アンケートを通して調査研究を行った。</p>	<p>IV</p>		<p>資料43</p>

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）  
 (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。	ウ 大学の知的資源の特性を生かし、他大学や各種研究機関との共同研究を実施する。	(カ) 被災地でケア活動を実施している宮城大学関係者を本学に招き、「東日本大震災復興における芸術の果たす役割」をテーマとしたシンポジウムを5芸大との共催で開催する。	○11月7日、金沢21世紀美術館において、「東日本大震災復興における芸術の果たす役割」をテーマにシンポジウムを開催した。 被災地からゲストとして宮城大学学長をはじめ3名の芸術系教員を招き、基調講演、活動報告を行った後、五芸大の学長等によるパネルディスカッションを実施し、会場参加者からの質疑を交えて芸術による新たな活動や支援方法などについて活発な議論を行うことができた。 最後に、五芸大連名による声明文を採択し、東日本大震災の記憶を風化させず、「文化芸術」の力を活かし、今後の活動を行っていくことを宣言した。 シンポジウムの内容は報告書として取りまとめ学内外に配布するとともに、大学ホームページに掲載し、公表した。	IV		資料45

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）  
 (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。</p>	<p>オ 学生とともに、市民に向けた多彩なアートイベントを開催する。</p>	<p>カ 23年度開設した「アートベース石引」を大学の情報発信拠点として、各種アートイベントを開催するほか、商店街を含めた地域活性化と産業との連携事業を実施する。</p>	<p>○開設2年目の「アートベース石引」はトイレの改修を行い、利便性を高めた。                  ○学生有志のグループ展のほか、研究室単位の成果報告会や制作のスペースとして、また産学連携の成果発表の会場として活用して石引商店街の賑わいづくりに貢献した。                  ○石川県インテリアデザイン協会主催の「能登で活動するデザイナーを招いてのミニフォーラム」や「金沢ADC第1回受賞作品展」、また卒業生のメンバーからの要望による展覧会（バレーボール部OB展「たま展／一球一芸」）等が開催された。                  ○本年度のイベント数は21を数え、開場日は延べ231日に達し、前年度以上の稼働率であった。</p>	<p>IV</p>		<p>資料16 資料47</p>

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）  
 (2) 国際化に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育 研究活動を推進するた め、学生や教員の国際 交流の機会を拡大す る。	ア 教育研究における国際交流 を推進するため、学生や教員 の海外交流の機会を拡大する とともに、交流内容の充実を 図る。	(イ) ナンシー国立美術大学(フ ランス)との交流協定締結に 向けて協議を開始するととも に、引き続き、学生を派遣 する。	○ナンシー国立美術大学との間で、 6月19日に、毎年1～3ヶ月の期間、 学生1名を相互派遣・受入れするこ とを内容とする正式な交流協定を締結 した。 ○本学から学部学生1名を派遣し、 10月から2ヶ月間滞在した。滞在期間 中に、聴講及び制作活動、学生との 交流などを行い、帰国後に報告会を 実施した。	IV		資料48 資料51

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。



大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）  
 (2) 国際化に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育研究活動を推進するため、学生や教員の国際交流の機会を拡大する。	ア 教育研究における国際交流を推進するため、学生や教員の海外交流の機会を拡大するとともに、交流内容の充実を図る。	(カ) 新たにナント美術学校（フランス）との交流協定締結に向けて協議を開始する。	○毎年1～2ヶ月の期間、学生1名を相互派遣受入れすることとする内容の、正式な交流協定を12月17日に締結した。これに基づき、25年度からの学生相互派遣・受入れ開始を確認した。	IV		資料52

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

財務内容の改善に関する目標  
 2 経費の効率化に関する目標  
 (2) 人件費以外の経費の効率化に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
人件費以外の経費の効率化を図るため、弾力的かつ効果的な予算執行に努めるとともに、業務の簡素化及び効率化を進める。	イ 物品や備品の共同購入やインターネットの活用など、調達方法の改善を図り、効率的な予算執行を進める。 【22年度試行】	ウ 新たな調達業者を調査するとともに、工事の仕様書発注や物品調達における共同購入並びにインターネット活用など、効率的な予算執行を行う。	○地元業者では入手までに時間がかかる物品やより安価で効率的な物品納入を目指して、新たに法人クレジットカードを取得して、インターネットによる調達対象物品を拡大した。 ○施設改修設備工事では、設計から建設までを一括して発注する仕様書発注を試行し、設計管理費と現場管理費の節減に努めた。	IV		資料60 115

## 〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標  
2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>社会に対する説明責任を果たすため、学内情報の公開等に関する基本方針を定め、積極的な情報公開を図るとともに、大学の活動を広く社会に示すため、教育研究活動等について積極的な情報発信を図る。</p>	<p>(2) 大学の活動を広く市民に示すとともに、教育・研究・社会活動・国際交流に関する大学広報力を強化し、美大ブランドの確立を目指す。</p>	<p>(6) 被災地でケア活動を実施している宮城大学関係者を本学に招き、「東日本大震災復興における芸術の果たす役割」をテーマとしたシンポジウムを5芸大の共催で開催する。 【再掲 社会連携事業】</p>	<p>○11月7日に金沢21世紀美術館シアター21において、五芸大の共催で宮城大学学長 西垣 克氏、中田千彦准教授を招き、シンポジウム「東日本大震災復興における芸術の果たす役割」を開催し、声明文を採択したほか、シンポジウムの報告書を作成し学内外に配布するとともに、大学ホームページで公表した。</p>	<p>IV</p>		<p>資料45 128</p>

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

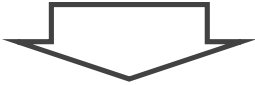
大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>ア 芸術に対する高い資質を持つ学生を募集し確保するため、各科、各専攻ごとに、それぞれが求める学生像や能力、適性等について入学者受入方針を定め、これに基づいた学生の選抜を行う。</p>	<p>(イ) 入学者受入方針に応じた学生の受入れを行うため、現行の入学者選抜方法について再検討し、その結果を実践する。</p>	<p>(ア) 22年度に策定した入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき実施した24年度一般選抜試験が、その受入方針の実現にふさわしい選抜方法であったか検証を行い、その結果を入学試験に活かす。</p>	<p>○入試委員会において、24年度入学試験を検証した結果、一般選抜試験及び特別選抜試験ともに、アドミッションポリシーに基づいた選抜内容・方法であることを確認した。なお、確認に当たっては、専攻別の入学試験実績状況に関する記録を利用し、選抜試験がアドミッションポリシーの求める学生を見極めるためのものとして適切であったか、また今後の選抜試験において改善の必要性があるか、出題について工夫の余地はないのか、という点について作業を行い、次年度以降の入学試験に活かすこととした。</p>	<p>Ⅲ</p>		<p>1</p>

〔質問(実績文言修正)〕

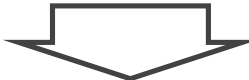
・検証作業を行った結果、入学試験に活かされたか、という点について記述を欠いている。

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>ア 芸術に対する高い資質を持つ学生を募集し確保するため、各専攻ごとに、それぞれが求める学生像や能力、適性等について入学受入方針を定め、これに基づいた学生の選抜を行う。</p>	<p>(イ) 入学受入方針に応じた学生の受入れを行うため、現行の入学選抜方法について再検討し、その結果を実践する。</p>	<p>(カ) 各地域で開催される進学相談会に引き続き積極的に参加するほか、新たに県外からの修学旅行生を対象とした体験教室等を開催する。</p>	<p>○大阪、愛知、京都、富山、神奈川、新潟、兵庫に加え、広島での芸術系相談会に各専攻の教職員29名が参加し、242名の相談を受けた。</p>  <p>○これまでの実施地域（大阪、愛知、京都、富山、神奈川、新潟、兵庫）に加え、新たに広島における芸術系進学相談会にも参加し、各専攻の教職員29名が各地域で計242名の相談を受けた。</p> <p>○大学や専攻を紹介するDVDやバナー（布製説明用パネル）、パンフレットを有効活用した。</p> <p>○予備校や画塾とも連携し、ワークショップや保護者向けガイダンス、本学学生の公開作品展示を実施した。</p> <p>○新たに関東圏や関西圏の予備校で受験生や保護者向け説明会を開催した。</p> <p>○大阪からの高校の修学旅行を受け入れ、体験授業を実施した。</p>	<p>IV</p>		<p>資料3 資料3-1</p>

〔意見(実績文言修正)〕

- ・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。
- ・事業実績において、進学相談会の開催地域の拡大を強調して記述すべきではないか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。	(イ) 人間形成のための教養教育を確保し、体系的な理論基礎教育を実践するため、一般教育科目と専門基礎科目の在り方を見直し、カリキュラムを充実する。【24年度改編】	(ア) 教育の実質化を図るため、成績評価基準を明確にしてシラバスの充実を図る。	○昨年度に作成したシラバスを、24年度の教務委員会で精査し、成績評価の基準について、客観化して具体的な目標を定め、学生にとって伝わりやすい表現に改め25年度のシラバスに反映できるように科目担当者に指示し、教務委員会で総括を行った。    ○教務委員会でシラバスを精査し、成績評価の基準について、客観化して具体的な目標を定め、学生にとって伝わりやすい表現に改めるよう各科目担当者に指示し、改善の結果を24年度末に作成する25年度のシラバスに反映させた。	III		資料3-3

[意見(実績文言修正、資料追加)]

・平成25年度段階では、シラバスを通じて成績評価基準の明確化が果たされず、年度計画は達成できなかったというように読み取れる。

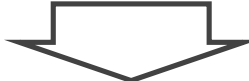
大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。	(オ) 専攻にとらわれず、多様な芸術分野を学ぶことができるようにするため、学生が主体的に選択できる基礎的な共通科目を充実するほか、他大学等との単位互換の活用方法を検討し、有効かつ実現可能と認められるものについて、導入を進める。【24年度改編など】	(ク) 金沢大学との連携協定を活用し、共同研究や連携事業に学生の参加を促す。また、金沢大学等の学生の受け入れについて検討する。	○金沢大学医薬保健学域医学類の「基礎配属」を受講する学生を4名受け入れて、2月に美術、デザイン、工芸の講義及びデッサンの実技を行った。 ○金沢大学との連携協定に基づいて、金沢大学理工研究域と、本学のデザイン科等の研究発表会に学生の参加を促した。 ○工芸科と金沢大学研究室のラボツアーを行い、学生も参加した。	Ⅲ		資料7 資料8

〔意見〕

・年度計画には「検討する」とあるが、実績は検討段階から先に進み「実施」しているため「Ⅳ」評価が妥当ではないか。敢えて「Ⅲ」評価とした理由は何か。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

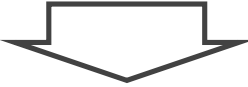
中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。	(カ) 美術系教員や学芸員などの専門家養成課程を堅持するため、制度改正に伴う教職関係科目、学芸員養成科目の適切な対応を実施する。【24年度改編】	(コ) 23年度までの見直しに基づいた教職関係科目を開講する。	○24年度からの新カリキュラムを施行し、教職関係科目を開講した。    ○24年度からの教職関係科目の新カリキュラム開講の計画を遅滞なく実施することができた。さらに、この新カリキュラム改編は、専門科目全般の見直しを含んだものであり、総合的な改善となった。	III		資料9-1

[意見(実績文言修正、資料追加)]

・「年度計画」がどのように達成されたかについて具体的な記述に欠ける。



大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。	(カ) 美術系教員や学芸員などの専門家養成課程を堅持するため、制度改正に伴う教職関係科目、学芸員養成科目の適切な対応を実施する。【24年度改編】	(ケ) 制度改正に対応した学芸員養成科目を開講する。	○24年度からの新カリキュラムを施行し、学芸員養成科目を開講した。    ○24年度からの学芸員養成科目の新カリキュラム開講の計画を遅滞なく実施することができた。さらに、この新カリキュラム改編は、 <u>専門科目全般の見直しを含んだものであり、総合的な改善となった。</u>	III		資料9-2

[意見(実績文言修正、資料追加)]

・「年度計画」がどのように達成されたかについて具体的な記述に欠ける。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ウ 大学院教育にあつては、芸術の多様な領域で活躍できる高度専門職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、自由で多様な表現を認め育てる高度な教育を効果的に実施する。	(イ) 産学連携研究や地域課題を研究テーマに活用し、社会と接点を持つ教育プログラムを検討し、大学院生自らがマネジメントを行う実践的で高度な教育を推進する。	(イ) 社会の第一線で活躍する独立系デザイナー等を招聘し、ディレクター養成教育を進める。	○デザイン科については卒業生や就職先からの大学に対する意見を、直接非常勤講師として採用するなどの方法で教育に反映して成果を挙げている。 ○美術科・工芸科に関しては、卒業生や就職先からの大学に対する意見は主として就職担当教員の企業訪問の機会を活用して収集している。 ○全学的に卒業生の意見を取り入れる仕組みを構築するため、卒業、修子の確定した全学生に対して、2月に大学教育全般についてのアンケートを実施した。 ○自己点検・評価実施運営会議及び各科・専攻でそのアンケート結果の集計・分析を行い、今後も継続して情報を蓄積し、教育効果の検証を行うこととした。 ○独立系デザイナー（映像系：早川和良、製品デザイン関連：高尾茂行、塚本カナエ、環境デザイン関連：吉村寿博）や企業デザイナー（電通、博報堂、sony、パナソニック、乃村工芸社など）を招聘し、現場でのデザインワークの実際やマネジメント等の実践的な経験を踏まえた活動を学習した。さらに、広告代理店海外担当ディレクターを招聘し、自分の制作コンセプトを英語でまとめ、プレゼンテーションを行うなど、国際的な視点でのディレクション教育を行った。	III		

〔意見(実績説明文訂正)〕  
 ・「企業ディレクター」、「独立系デザイナー」、「企業デザイナー」の意義とその関係性が不明確であり、「年度計画」がどのように実現されているのか分かりにくい記述となっている。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ウ 大学院教育にあっ ては、芸術の多様な 領域で活躍できる高 度専門職業人を育成 するため、教育の実 施に関する基本方針 を定め、自由で多様 な表現を認め育てる 高度な教育を効果的 に実施する。	(ウ) 表現の多様化、自由化や高 度化など、学生の多様な学習 需要に対応するため、学生が 主体的に選択できる共通科目 を充実する。【24年度改編な ど】	(カ) 大学院生の要望に応じた外 部講師を招聘する。	○24年度は大学院特別講師として以下 の講師を招聘した。  服飾ブランド matohu/まとふ 堀畑裕之氏、関口真希子氏 現代美術家 名和晃平氏 森美術館館長 南條史生氏 ギャラリスト 小山登美夫氏	Ⅲ		資料11 資料12

〔質問〕

・講師陣は、年度計画にある「大学院生の要望に応じた」講師選定の結果として招聘された者か。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
エ 教育の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を定め、これを厳正に適用することにあわせ、その検証に取り組むことにより、成績評価の透明性、客観性及び信頼性の向上を図る。	(7) 卒業生、修了生の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を策定し、これらを公表するとともに、成績評価基準については、学生の学修目標設定などに資するため、シラバスへ記載し、学生に明示する。【22年度】	(7) 引き続き、シラバスの成績評価欄について基準を明確にするため記載を改善する。	○成績評価欄について基準を明確にするため、教務委員会や大学院運営委員会等で検討し、その改善について各専攻等で確認を行い、改善の結果を24年度末に作成する25年度のシラバスに反映させた。	III		資料3-3

25

[意見(実績文言修正、資料追加)]

・平成25年度段階では、シラバスを通じて成績評価基準の明確化が果たされず、年度計画は達成できなかったというように読み取れる。

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>エ 教育の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を定め、これを厳正に適用することにあわせ、その検証に取り組むことにより、成績評価の透明性、客観性及び信頼性の向上を図る。</p>	<p>(7) 卒業生、修了生の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を策定し、これらを公表するとともに、成績評価基準については、学生の学修目標設定などに資するため、シラバスへ記載し、学生に明示する。【22年度】</p>	<p>(イ) 成績評価の客観性を高めるため、ピアレビューを実施して、その効果を検証する。</p>	<p>○実技の成績評価の客観性を高めるため、他専攻教員を含めた複数教員による合評会を実施し、それを全学統一のフォーマットで記録する方法でピアレビューを実施した。その効果については、教育研究センター及び各専攻・科で検証した。</p>	<p>Ⅲ</p>		<p>資料13</p>

〔意見〕

・年度計画の「効果を検証する」に対して、業務実績ではピアレビューを行った結果、客観性を高める効果があったかどうかを記載すべきではないか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学生が充実した学生生活を送ることができるようにするため、生活面での支援体制を充実する。	(ウ) 学生生活の経済的な支援を充実する方策を検討し、有効かつ実現可能と認められるものについて、財源の確保に取り組む、効果的な支援制度の構築を目指す。	(ウ) 卒業生や民間企業等の協力を得て、学生生活の支援が出来ないか検討する。	○昨年度活用を決定した「社会福祉法人金沢市社会福祉協議会」の奨学金制度については、実績として学生の利用はなかったが、同窓会からの寄付金による「けやき賞」については、ほぼ全専攻から学生の推薦があり、7件の顕彰を行い、奨学金を授与した。	Ⅲ		資料25

〔意見〕

・年度計画には「検討する」とあるが、実績は検討段階から先に進み「実施」しているため「Ⅳ」評価が妥当ではないか。敢えて「Ⅲ」評価とした理由は何か。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。	イ 企業等からの受託研究や共同研究などにおいて、教育と研究の観点から大学が取り組む意義のある研究を積極的に実施する。	イ 企業等からの受託研究や共同研究などにおいて、教育と研究の観点から大学が取り組む意義のある研究を積極的に実施し、学生のスキルアップに活用する。	○企業や自治体等との間で、商品化や事業化を前提とした32件の連携事業を行った。生活用品、自動車の内装提案など、商品化を前提とした企業等からの厳しい要求に応えることで学生のスキルアップにつながっており、最終プレゼンテーションも高く評価された。	IV		資料5
参考 No.10(資料番号1 P10) イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。	(I) 産学・地域連携研究を授業課題に活用するなど、社会と接点を持つ教育プログラムを検討し、実践的な教育を推進する。	(ウ) 産学連携研究や地域での芸術活動の依頼のうち、教育的効果が期待できる事業を積極的に受託・参画し、実社会の課題を通じて経験を重ねる教育を実施する。	○東京六本木AXIS内JIDAギャラリーにおいて、産学連携・地域連携業務において商品化されたアイテムや学生が企画した美大アイテムを展示公開し、これまでの実績と今後の産学連携業務のアピールを行った。 ○企業、公共団体等からの依頼により連携した事業は産学連携事業として14件、地域連携事業として18件を行ったが、これらの中には、教育プログラムとして有効なものが多数あり、実社会の課題を通して効果的な授業を行うことができた。特にスマートデバイスの新しいインターフェイス開発、金沢の水パッケージデザイン、メガネフレームデザイン等は実際に商品化されており、今後も具体化を視野に取り組んでいくことを確認した。	III		資料4 資料5

78

〔質問〕

- ・この項目とNo.10は各々連動していないと見てよいか。なお、No.10は「Ⅲ」評価である。
- ・「Ⅳ」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）  
 (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。	ウ 大学の知的資源の特性を生かし、他大学や各種研究機関との共同研究を実施する。	(イ) 卯辰山工芸工房、クラフトビジネス創造機構や職人大学校等との協働を検討する。	○本年度においても、卯辰山工芸工房や職人大学校との間で相互講師派遣を行った。本学工芸科教員は卯辰山工芸工房の研究会や講評会に参加し、また職人大学校からは木工の実技指導の講師として工芸科の授業を受け持った。さらに授業や学外活動においても教員を通じて、工房の相互使用や制作・技術支援を学生間で行った。 ○金沢クラフト創造機構と協働で、「おしゃれメッセ2012」のメインポスターデザインを、学生8名によるコンペを行って選抜・作成した。	Ⅲ		

〔意見〕

・年度計画には「検討する」とあるが、実績は検討段階から先に進み「実施」しているため「Ⅳ」評価が妥当ではないか。敢えて「Ⅲ」評価とした理由は何か。



中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育研究活動を推進するため、学生や教員の国際交流の機会を拡大する。	ア 教育研究における国際交流を推進するため、学生や教員の海外交流の機会を拡大するとともに、交流内容の充実を図る。	(ア) バッファロー美術大学(アメリカ)との交流協定締結に向けて協議を開始する。	○20年度より始まった交流実績に基づき、両校との間で主に教員同士の交流を目的とした正式な交流協定を締結した。 ○これを受けて、交流協定締結後最初の交流事業として、10月14日から20日にかけて、本学から教員2名を派遣し、講演会及びワークショップを開催するとともに、将来の学生の相互交流開始に向けた協議を行った。	Ⅲ		資料48 資料49

〔意見〕

・年度計画には「交流協定締結に向けて協議を開始する」とあるが、実績は協議段階から先に進み「交流協定を締結」し、交流事業を実施しているため「Ⅳ」評価が妥当ではないか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育研究活動を推進するため、学生や教員の国際交流の機会を拡大する。	ア 教育研究における国際交流を推進するため、学生や教員の海外交流の機会を拡大するとともに、交流内容の充実を図る。	(オ) ヴァランド芸術学院（スウェーデン）から学生を受け入れる。	○ヴァランド芸術学院が当初派遣することを予定していた学生が本人の都合により来日できなくなったため、急遽、ヴァランド芸術学院の教員1名が、本学の状況と今後の交流について協議するため、2月25日から3月1日まで来学した。	Ⅲ		93

〔質問〕

・「Ⅲ」評価について、どのような基準で自己評価したのか。不測の事態の原因が先方にあることから、実質的に判断したということか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育 研究活動を推進するた め、学生や教員の国際 交流の機会を拡大す る。	イ 外国人留学生の受入れの拡 大を目指し、受入制度を検討 し、有効かつ実現可能と認め られるものについて、制度化 を図る。	イ 外国人留学生の受入れの拡 大を目指し、受入制度の検討 に着手する。	○大学院における外国人の受入れに 関する「特別科目等履修生受入れ 要項」から、日本語能力試験2級証 明書、及び外国人登録証明書（留 学の在留資格）の提出を削除し、 実質的に優秀で指導可能な外国人 留学生受入れの拡大を図った。	IV		資料54

97

〔質問〕

- ・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。
- ・「業務実績」の記述の印象として、留学生の質の担保やコンプライアンスの観点からやや不安を覚えるが、それらの点については特段の問題はないと見て差支えないか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学生が充実した学 生生活を送ることが できるようにするた め、生活面での支援 体制を充実する。	(I) 福利厚生面での充実を図 るため、学生の意見を広く聴 き、改善に努める。	(I) 学生自治会等との意見交換 等を実施し、学生の意見を聴 き、学内環境の改善に努め る。	○学生自治会執行部と年4回意見交換 を行ったほか、学内での喫煙及び飲 酒に関するルールについて自治会の 同意を得るための話し合いを行っ た。 ○画材や文具等を販売する売店の改善 を求める学生の要求に対して、プロ ポーザル方式による業者選定を実施 し、使い勝手の良い売店の実現を 図った。	IV		資料26

54

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>ア 芸術の分野において、世界に通じる研究拠点を形成するため、新たな芸術の創造に資する高度な調査研究や地域の特色ある課題に積極的に取り組む。</p>	<p>(イ) 世界に通じる研究拠点となるため、国際的な共同研究に取り組む。</p>	<p>(エ) 昨年度まで金沢市の委託事業として実施してきた「アジア工芸作家等研修支援業務」を本学の業務として継続して実施するとともに、アジア工芸教育交換プログラム（4年目）として、工芸教育者や専門家との相互交流を通じて、伝統的な技術等の共有と人的ネットワークの構築を目指す。</p>	<p>○「アジア工芸作家等研修支援業務」では、ミャンマーマンダレー管区の若手染織プランナーを昨年度からの継続で4カ月間、また新たに同国の国立漆芸技術大学及び国立サウンダー染織学校から各1名ずつの若手教員を3カ月間受け入れた。</p> <p>○上記若手教員2名は、本学での漆芸・染織の専門演習授業に参加させたほか、石川の工芸産地見学を行った。</p> <p>○ミャンマーの伝統技法を紹介するワークショップ及び講演会を開催し、本学学生や金沢及び石川県内の漆芸・染織関係者との技術交流を行った。</p> <p>○ミャンマーの若手染織プランナーは、1年間の研修を終え、急成長が見込まれる同国での新規事業に携わった。</p> <p>○「アジア工芸教育交換プログラム」では、一昨年度、昨年度に引き続き、ミャンマーマンダレー管区タンパワディーの鑄金、鍛金の現地調査に加えて、新たにアジアの伝統的ものづくりと先端的IT環境及びデザイン教育についてマレーシアで現地調査を行ったほか、石川県の社会福祉法人「佛子園」からの委託を受け、ブータンの工芸品を国際市場に参入させるためのプラン策定を行った。</p>	IV		資料31
<p><b>〔質問〕</b>                  ・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。</p>						62

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）  
 (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。	ウ 大学の知的資源の特性を生かし、他大学や各種研究機関との共同研究を実施する。	ウ 他大学や研究機関等との連携 (7) 医療におけるアートの潜在的な可能性の調査研究を金沢市立病院と共同で行う。	○金沢市立病院を会場にして、「第1回ホスピタル・ギャラリー展」、「第12回光の回廊シリーズその4パレード」、「第13回待ち時間を豊かにする椅子展Ⅱ」、「第14回ランドスケープ・デザイン展示」を行い、医療におけるアートの潜在的な力の効果について、展示、アンケートを通して調査研究を行った。	IV		資料43

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）  
 (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。</p>	<p>ウ 大学の知的資源の特性を生かし、他大学や各種研究機関との共同研究を実施する。</p>	<p>(カ) 被災地でケア活動を実施している宮城大学関係者を本学に招き、「東日本大震災復興における芸術の果たす役割」をテーマとしたシンポジウムを5芸大との共催で開催する。</p>	<p>○11月7日、金沢21世紀美術館において、「東日本大震災復興における芸術の果たす役割」をテーマにシンポジウムを開催した。                  被災地からゲストとして宮城大学学長をはじめ3名の芸術系教員を招き、基調講演、活動報告を行った後、五芸大の学長等によるパネルディスカッションを実施し、会場参加者からの質疑を交えて芸術による新たな活動や支援方法などについて活発な議論を行うことができた。                  最後に、五芸大連名による声明文を採択し、東日本大震災の記憶を風化させず、「文化芸術」の力を活かし、今後の活動を行っていくことを宣言した。                  シンポジウムの内容は報告書として取りまとめ学内外に配布するとともに、大学ホームページに掲載し、公表した。</p>	<p>IV</p>		<p>資料45</p>

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）  
 (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。</p>	<p>オ 学生とともに、市民に向けた多彩なアートイベントを開催する。</p>	<p>カ 23年度開設した「アートベース石引」を大学の情報発信拠点として、各種アートイベントを開催するほか、商店街を含めた地域活性化と産業との連携事業を実施する。</p>	<p>○開設2年目の「アートベース石引」はトイレの改修を行い、利便性を高めた。                  ○学生有志のグループ展のほか、研究室単位の成果報告会や制作のスペースとして、また産学連携の成果発表の会場として活用して石引商店街の賑わいづくりに貢献した。                  ○石川県インテリアデザイン協会主催の「能登で活動するデザイナーを招いてのミニフォーラム」や「金沢ADC第1回受賞作品展」、また卒業生のメンバーからの要望による展覧会（バレーボール部OB展「たま展／一球一芸」）等が開催された。                  ○本年度のイベント数は21を数え、開場日は延べ231日に達し、前年度以上の稼働率であった。</p>	<p>IV</p>		<p>資料16 資料47</p>

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。



中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育 研究活動を推進するた め、学生や教員の国際 交流の機会を拡大す る。	ア 教育研究における国際交流 を推進するため、学生や教員 の海外交流の機会を拡大する とともに、交流内容の充実を 図る。	(イ) ナンシー国立美術大学(フ ランス)との交流協定締結に 向けて協議を開始するととも に、引き続き、学生を派遣 する。	○ナンシー国立美術大学との間で、 6月19日に、毎年1～3ヶ月の期間、 学生1名を相互派遣・受入れするこ とを内容とする正式な交流協定を締結 した。 ○本学から学部学生1名を派遣し、 10月から2ヶ月間滞在した。滞在期間 中に、聴講及び制作活動、学生との 交流などを行い、帰国後に報告会を 実施した。	IV		資料48 資料51

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）  
 (2) 国際化に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育 研究活動を推進するた め、学生や教員の国際 交流の機会を拡大す る。	ア 教育研究における国際交流 を推進するため、学生や教員 の海外交流の機会を拡大する とともに、交流内容の充実を 図る。	(カ) 新たにナント美術学校（フ ランス）との交流協定締結に 向けて協議を開始する。	○毎年1～2ヶ月の期間、学生1名を相 互派遣受入れすることとする内容 の、正式な交流協定を12月17日に締 結した。これに基づき、25年度から の学生相互派遣・受入れ開始を確認 した。	IV		資料52

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

財務内容の改善に関する目標  
 2 経費の効率化に関する目標  
 (2) 人件費以外の経費の効率化に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
人件費以外の経費の効率化を図るため、弾力的かつ効果的な予算執行に努めるとともに、業務の簡素化及び効率化を進める。	イ 物品や備品の共同購入やインターネットの活用など、調達方法の改善を図り、効率的な予算執行を進める。 【22年度試行】	ウ 新たな調達業者を調査するとともに、工事の仕様書発注や物品調達における共同購入並びにインターネット活用など、効率的な予算執行を行う。	○地元業者では入手までに時間がかかる物品やより安価で効率的な物品納入を目指して、新たに法人クレジットカードを取得して、インターネットによる調達対象物品を拡大した。 ○施設改修設備工事では、設計から建設までを一括して発注する仕様書発注を試行し、設計管理費と現場管理費の節減に努めた。	IV		資料60 115

## 〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標  
2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

資料番号1 P59

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>社会に対する説明責任を果たすため、学内情報の公開等に関する基本方針を定め、積極的な情報公開を図るとともに、大学の活動を広く社会に示すため、教育研究活動等について積極的な情報発信を図る。</p>	<p>(2) 大学の活動を広く市民に示すとともに、教育・研究・社会活動・国際交流に関する大学広報力を強化し、美大ブランドの確立を目指す。</p>	<p>(6) 被災地でケア活動を実施している宮城大学関係者を本学に招き、「東日本大震災復興における芸術の果たす役割」をテーマとしたシンポジウムを5芸大の共催で開催する。 【再掲 社会連携事業】</p>	<p>○11月7日に金沢21世紀美術館シアター21において、五芸大の共催で宮城大学学長 西垣 克氏、中田千彦准教授を招き、シンポジウム「東日本大震災復興における芸術の果たす役割」を開催し、声明文を採択したほか、シンポジウムの報告書を作成し学内外に配布するとともに、大学ホームページで公表した。</p>	<p>IV</p>		<p>資料45 128</p>

〔質問〕

・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。

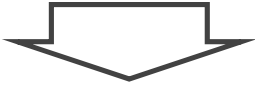
大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>ア 芸術に対する高い資質を持つ学生を募集し確保するため、各科、各専攻ごとに、それぞれが求める学生像や能力、適性等について入学者受入方針を定め、これに基づいた学生の選抜を行う。</p>	<p>(イ) 入学者受入方針に応じた学生の受入れを行うため、現行の入学者選抜方法について再検討し、その結果を実践する。</p>	<p>(ア) 22年度に策定した入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき実施した24年度一般選抜試験が、その受入方針の実現にふさわしい選抜方法であったか検証を行い、その結果を入学試験に活かす。</p>	<p>○入試委員会において、24年度入学試験を検証した結果、一般選抜試験及び特別選抜試験ともに、アドミッションポリシーに基づいた選抜内容・方法であることを確認した。なお、確認に当たっては、専攻別の入学試験実績状況に関する記録を利用し、選抜試験がアドミッションポリシーの求める学生を見極めるためのものとして適切であったか、また今後の選抜試験において改善の必要性があるか、出題について工夫の余地はないのか、という点について作業を行い、次年度以降の入学試験に活かすこととした。</p>	<p>Ⅲ</p>		<p>1</p>

〔質問(実績文言修正)〕

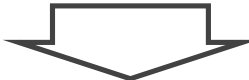
・検証作業を行った結果、入学試験に活かされたか、という点について記述を欠いている。

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>ア 芸術に対する高い資質を持つ学生を募集し確保するため、各専攻ごとに、それぞれが求める学生像や能力、適性等について入学受入方針を定め、これに基づいた学生の選抜を行う。</p>	<p>(イ) 入学受入方針に応じた学生の受入れを行うため、現行の入学選抜方法について再検討し、その結果を実践する。</p>	<p>(カ) 各地域で開催される進学相談会に引き続き積極的に参加するほか、新たに県外からの修学旅行生を対象にした体験教室等を開催する。</p>	<p>○大阪、愛知、京都、富山、神奈川、新潟、兵庫に加え、広島での芸術系相談会に各専攻の教職員29名が参加し、242名の相談を受けた。</p>  <p>○これまでの実施地域（大阪、愛知、京都、富山、神奈川、新潟、兵庫）に加え、新たに広島における芸術系進学相談会にも参加し、各専攻の教職員29名が各地域で計242名の相談を受けた。</p> <p>○大学や専攻を紹介するDVDやバナー（布製説明用パネル）、パンフレットを有効活用した。</p> <p>○予備校や画塾とも連携し、ワークショップや保護者向けガイダンス、本学学生の公開作品展示を実施した。</p> <p>○新たに関東圏や関西圏の予備校で受験生や保護者向け説明会を開催した。</p> <p>○大阪からの高校の修学旅行を受け入れ、体験授業を実施した。</p>	<p>IV</p>		<p>資料3 資料3-1</p>

〔意見(実績文言修正)〕

- ・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。
- ・事業実績において、進学相談会の開催地域の拡大を強調して記述すべきではないか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。	(イ) 人間形成のための教養教育を確保し、体系的な理論基礎教育を実践するため、一般教育科目と専門基礎科目の在り方を見直し、カリキュラムを充実する。【24年度改編】	(ア) 教育の実質化を図るため、成績評価基準を明確にしてシラバスの充実を図る。	○昨年度に作成したシラバスを、24年度の教務委員会で精査し、成績評価の基準について、客観化して具体的な目標を定め、学生にとって伝わりやすい表現に改め25年度のシラバスに反映できるように科目担当者に指示し、教務委員会で総括を行った。    ○教務委員会でシラバスを精査し、成績評価の基準について、客観化して具体的な目標を定め、学生にとって伝わりやすい表現に改めるよう各科目担当者に指示し、改善の結果を24年度末に作成する25年度のシラバスに反映させた。	III		資料3-3

[意見(実績文言修正、資料追加)]

・平成25年度段階では、シラバスを通じて成績評価基準の明確化が果たされず、年度計画は達成できなかったというように読み取れる。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

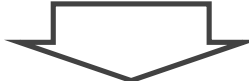
中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学士課程教育にあっ ては、美術・工芸・ デザインの分野にお いて確かな造形の基 礎力を修めた職業人 を育成するため、教 育の実施に関する基 本方針を定め、これ に基づく特色ある教 育を効果的に実施す る。	(オ) 専攻にとられず、多様な 芸術分野を学ぶことが できるようにするため、 学生が主体的に選 択できる基礎的な共 通科目を充実するほ か、他大学等との単 位互換の活用方法を 検討し、有効かつ実 現可能と認められる ものについて、導入 を進める。【24年度 改編など】	(ク) 金沢大学との連 携協定を活用し、共 同研究や連携事業に 学生の参加を促す。 また、金沢大学等の 学生の受け入れにつ いて検討する。	○金沢大学医薬保健 学域医学類の「基礎 配属」を受講する学 生を4名受け入れて、 2月に美術、デザイ ン、工芸の講義及び デッサンの実技を行 った。 ○金沢大学との連携 協定に基づいて、金 沢大学理工研究域と 、本学のデザイン科 等の研究発表会に学 生の参加を促した。 ○工芸科と金沢大学 研究室のラボツアー を行い、学生も参加 した。	Ⅲ		資料7 資料8

〔意見〕

・年度計画には「検討する」とあるが、実績は検討段階から先に進み「実施」しているため「Ⅳ」評価が妥当ではないか。敢えて「Ⅲ」評価とした理由は何か。



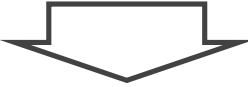
大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。	(カ) 美術系教員や学芸員などの専門家養成課程を堅持するため、制度改正に伴う教職関係科目、学芸員養成科目の適切な対応を実施する。【24年度改編】	(コ) 23年度までの見直しに基づいた教職関係科目を開講する。	○24年度からの新カリキュラムを施行し、教職関係科目を開講した。    ○24年度からの教職関係科目の新カリキュラム開講の計画を遅滞なく実施することができた。さらに、この新カリキュラム改編は、専門科目全般の見直しを含んだものであり、総合的な改善となった。	III		資料9-1

〔意見(実績文言修正、資料追加)〕

・「年度計画」がどのように達成されたかについて具体的な記述に欠ける。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。	(カ) 美術系教員や学芸員などの専門家養成課程を堅持するため、制度改正に伴う教職関係科目、学芸員養成科目の適切な対応を実施する。【24年度改編】	(サ) 制度改正に対応した学芸員養成科目を開講する。	○24年度からの新カリキュラムを施行し、学芸員養成科目を開講した。    ○24年度からの学芸員養成科目の新カリキュラム開講の計画を遅滞なく実施することができた。さらに、この新カリキュラム改編は、 <u>専門科目全般の見直しを含んだものであり、総合的な改善となった。</u>	III		資料9-2

[意見(実績文言修正、資料追加)]

・「年度計画」がどのように達成されたかについて具体的な記述に欠ける。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>ウ 大学院教育にあつては、芸術の多様な領域で活躍できる高度専門職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、自由で多様な表現を認め育てる高度な教育を効果的に実施する。</p>	<p>(イ) 産学連携研究や地域課題を研究テーマに活用し、社会と接点を持つ教育プログラムを検討し、大学院生自らがマネジメントを行う実践的で高度な教育を推進する。</p>	<p>(イ) 社会の第一線で活躍する独立系デザイナー等を招聘し、ディレクター養成教育を進める。</p>	<p>○デザイン科については卒業生や就職先からの大学に対する意見を、直接非常勤講師として採用するなどの方法で教育に反映して成果を挙げている。</p> <p>○美術科・工芸科に関しては、卒業生や就職先からの大学に対する意見は主として就職担当教員の企業訪問の機会を活用して収集している。</p> <p>○全学的に卒業生の意見を取り入れる仕組みを構築するため、卒業、修子の確定した全学生に対して、2月に大学教育全般についてのアンケートを実施した。</p> <p>○自己点検・評価実施運営会議及び各科・専攻でそのアンケート結果の集計・分析を行い、今後も継続して情報を蓄積し、教育効果の検証を行うこととした。</p> <p>○独立系デザイナー（映像系：早川和良、製品デザイン関連：高尾茂行、塚本カナエ、環境デザイン関連：吉村寿博）や企業デザイナー（電通、博報堂、sony、パナソニック、乃村工藝社など）を招聘し、現場でのデザインワークの実際やマネジメント等の実践的な経験を踏まえた活動を学習した。さらに、広告代理店海外担当ディレクターを招聘し、自分の制作コンセプトを英語でまとめ、プレゼンテーションを行うなど、国際的な視点でのディレクション教育を行った。</p>	<p>III</p>		

20

〔意見(実績説明文訂正)〕  
 ・「企業ディレクター」、「独立系デザイナー」、「企業デザイナー」の意義とその関係性が不明確であり、「年度計画」がどのように実現されているのか分かりにくい記述となっている。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ウ 大学院教育にあつては、芸術の多様な領域で活躍できる高度専門職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、自由で多様な表現を認め育てる高度な教育を効果的に実施する。	(ウ) 表現の多様化、自由化や高度化など、学生の多様な学習需要に対応するため、学生が主体的に選択できる共通科目を充実する。【24年度改編など】	(カ) 大学院生の要望に応じた外部講師を招聘する。	○24年度は大学院特別講師として以下の講師を招聘した。  服飾ブランド matohu/まとふ 堀畑裕之氏、関口真希子氏 現代美術家 名和晃平氏 森美術館館長 南條史生氏 ギャラリスト 小山登美夫氏	Ⅲ		資料11 資料12

〔質問〕

・講師陣は、年度計画にある「大学院生の要望に応じた」講師選定の結果として招聘された者か。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
エ 教育の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を定め、これを厳正に適用することにあわせ、その検証に取り組むことにより、成績評価の透明性、客観性及び信頼性の向上を図る。	(7) 卒業生、修了生の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を策定し、これらを公表するとともに、成績評価基準については、学生の学修目標設定などに資するため、シラバスへ記載し、学生に明示する。【22年度】	(7) 引き続き、シラバスの成績評価欄について基準を明確にするため記載を改善する。	○成績評価欄について基準を明確にするため、教務委員会や大学院運営委員会等で検討し、その改善について各専攻等で確認を行い、改善の結果を24年度末に作成する25年度のシラバスに反映させた。	III		資料3-3

25

[意見(実績文言修正、資料追加)]

・平成25年度段階では、シラバスを通じて成績評価基準の明確化が果たされず、年度計画は達成できなかったというように読み取れる。

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
<p>エ 教育の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を定め、これを厳正に適用することにあわせ、その検証に取り組むことにより、成績評価の透明性、客観性及び信頼性の向上を図る。</p>	<p>(7) 卒業生、修了生の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を策定し、これらを公表するとともに、成績評価基準については、学生の学修目標設定などに資するため、シラバスへ記載し、学生に明示する。【22年度】</p>	<p>(イ) 成績評価の客観性を高めるため、ピアレビューを実施して、その効果を検証する。</p>	<p>○実技の成績評価の客観性を高めるため、他専攻教員を含めた複数教員による合評会を実施し、それを全学統一のフォーマットで記録する方法でピアレビューを実施した。その効果については、教育研究センター及び各専攻・科で検証した。</p>	<p>Ⅲ</p>		<p>資料13</p>

〔意見〕

・年度計画の「効果を検証する」に対して、業務実績ではピアレビューを行った結果、客観性を高める効果があったかどうかを記載すべきではないか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学生が充実した学生生活を送ることができるようにするため、生活面での支援体制を充実する。	(ウ) 学生生活の経済的な支援を充実する方策を検討し、有効かつ実現可能と認められるものについて、財源の確保に取り組む、効果的な支援制度の構築を目指す。	(ウ) 卒業生や民間企業等の協力を得て、学生生活の支援が出来ないか検討する。	○昨年度活用を決定した「社会福祉法人金沢市社会福祉協議会」の奨学金制度については、実績として学生の利用はなかったが、同窓会からの寄付金による「けやき賞」については、ほぼ全専攻から学生の推薦があり、7件の顕彰を行い、奨学金を授与した。	Ⅲ		資料25

〔意見〕

・年度計画には「検討する」とあるが、実績は検討段階から先に進み「実施」しているため「Ⅳ」評価が妥当ではないか。敢えて「Ⅲ」評価とした理由は何か。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。	イ 企業等からの受託研究や共同研究などにおいて、教育と研究の観点から大学が取り組む意義のある研究を積極的に実施する。	イ 企業等からの受託研究や共同研究などにおいて、教育と研究の観点から大学が取り組む意義のある研究を積極的に実施し、学生のスキルアップに活用する。	○企業や自治体等との間で、商品化や事業化を前提とした32件の連携事業を行った。生活用品、自動車の内装提案など、商品化を前提とした企業等からの厳しい要求に応えることで学生のスキルアップにつながっており、最終プレゼンテーションも高く評価された。	IV		資料5
参考 No.10(資料番号1 P10) イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。	(I) 産学・地域連携研究を授業課題に活用するなど、社会と接点を持つ教育プログラムを検討し、実践的な教育を推進する。	(ウ) 産学連携研究や地域での芸術活動の依頼のうち、教育的効果が期待できる事業を積極的に受託・参画し、実社会の課題を通じて経験を重ねる教育を実施する。	○東京六本木AXIS内JIDAギャラリーにおいて、産学連携・地域連携業務において商品化されたアイテムや学生が企画した美大アイテムを展示公開し、これまでの実績と今後の産学連携業務のアピールを行った。 ○企業、公共団体等からの依頼により連携した事業は産学連携事業として14件、地域連携事業として18件を行ったが、これらの中には、教育プログラムとして有効なものが多数あり、実社会の課題を通して効果的な授業を行うことができた。特にスマートデバイスの新しいインターフェイス開発、金沢の水パッケージデザイン、メガネフレームデザイン等は実際に商品化されており、今後も具体化を視野に取り組んでいくことを確認した。	III		資料4 資料5

78

〔質問〕

- ・この項目とNo.10は各々連動していないと見てよいか。なお、No.10は「Ⅲ」評価である。
- ・「Ⅳ」評価について、どのような基準で自己評価したのか。



中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。	ウ 大学の知的資源の特性を生かし、他大学や各種研究機関との共同研究を実施する。	(イ) 卯辰山工芸工房、クラフトビジネス創造機構や職人大学校等との協働を検討する。	○本年度においても、卯辰山工芸工房や職人大学校との間で相互講師派遣を行った。本学工芸科教員は卯辰山工芸工房の研究会や講評会に参加し、また職人大学校からは木工の実技指導の講師として工芸科の授業を受け持った。さらに授業や学外活動においても教員を通じて、工房の相互使用や制作・技術支援を学生間で行った。 ○金沢クラフト創造機構と協働で、「おしゃれメッセ2012」のメインポスターデザインを、学生8名によるコンペを行って選抜・作成した。	Ⅲ		

〔意見〕

・年度計画には「検討する」とあるが、実績は検討段階から先に進み「実施」しているため「Ⅳ」評価が妥当ではないか。敢えて「Ⅲ」評価とした理由は何か。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育研究活動を推進するため、学生や教員の国際交流の機会を拡大する。	ア 教育研究における国際交流を推進するため、学生や教員の海外交流の機会を拡大するとともに、交流内容の充実を図る。	(ア) バッファロー美術大学(アメリカ)との交流協定締結に向けて協議を開始する。	○20年度より始まった交流実績に基づき、両校との間で主に教員同士の交流を目的とした正式な交流協定を締結した。 ○これを受けて、交流協定締結後最初の交流事業として、10月14日から20日にかけて、本学から教員2名を派遣し、講演会及びワークショップを開催するとともに、将来の学生の相互交流開始に向けた協議を行った。	Ⅲ		資料48 資料49

〔意見〕

・年度計画には「交流協定締結に向けて協議を開始する」とあるが、実績は協議段階から先に進み「交流協定を締結」し、交流事業を実施しているため「Ⅳ」評価が妥当ではないか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育研究活動を推進するため、学生や教員の国際交流の機会を拡大する。	ア 教育研究における国際交流を推進するため、学生や教員の海外交流の機会を拡大するとともに、交流内容の充実を図る。	(オ) ヴァランド芸術学院（スウェーデン）から学生を受け入れる。	○ヴァランド芸術学院が当初派遣することを予定していた学生が本人の都合により来日できなくなったため、急遽、ヴァランド芸術学院の教員1名が、本学の状況と今後の交流について協議するため、2月25日から3月1日まで来学した。	Ⅲ		93

〔質問〕

・「Ⅲ」評価について、どのような基準で自己評価したのか。不測の事態の原因が先方にあることから、実質的に判断したということか。

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育 研究活動を推進するた め、学生や教員の国際 交流の機会を拡大す る。	イ 外国人留学生の受入れの拡 大を目指し、受入制度を検討 し、有効かつ実現可能と認め られるものについて、制度化 を図る。	イ 外国人留学生の受入れの拡 大を目指し、受入制度の検討 に着手する。	○大学院における外国人の受入れに 関する「特別科目等履修生受入れ 要項」から、日本語能力試験2級証 明書、及び外国人登録証明書（留 学の在留資格）の提出を削除し、 実質的に優秀で指導可能な外国人 留学生受入れの拡大を図った。	IV		資料54

97

〔質問〕

- ・「IV」評価について、どのような基準で自己評価したのか。
- ・「業務実績」の記述の印象として、留学生の質の担保やコンプライアンスの観点からやや不安を覚えるが、それらの点については特段の問題はないと見て差支えないか。